

= …祈り =

7月の夜空といえば天の川。神様の娘、琴（こと）座のベガと呼ばれる織女星（しょくじょせい）＝織姫と、鷲（わし）座のアルタイルと呼ばれる牽牛星（けんぎゅうせい）＝彦星は、神様の引き合わせにより結婚した。織姫は織物、彦星は稲作という大切な仕事もあったのだが、幸せのあまり、その仕事をしなくなってしまった。それに怒った神様に天の川をはさんで引き離される。すると今度は悲しみに明け暮れ、仕事をしなくなってしまったために真面目に働くことを条件として、毎年7月7日だけは会えるようにしたという七夕伝説、みなさん幼いころに聞いたお話しだろう。

七夕の時期は梅雨の末期で例年雨が多い。近年では豪雨による災害も多発している。昨年7月の豪雨や平成30年西日本豪雨など、線状降水帯による猛烈な雨によって引き起こされている。気象庁は6月17日より「線状降水帯」の発生情報を発表し、避難指示等につなげることとなったが、どうか、今年はその発表がないことを……。線状は線状でも、天の川が満天に輝き織姫と彦星の年に一度の逢瀬となりますように……。

ところで、コロナ禍の今、単身赴任寮でチビチビやりながら、テレビを見る機会が多くなった。バラエティー番組では自衛隊を紹介する企画が増え、中でも最近女性自衛官を取り上げたものが多い。ものづくり産業同様に、男性職場のイメージが強いが、男女の隔たりはなく、既婚者、子育て中の自衛官も多く、男女共同参画を地でいく職場の感さえた。男女問わず、勤務に精励し、各種資格取得をめざし勉学に励み、努力次第で昇任（昇進）、近年、海上自衛隊では女性の護衛艦艦長まで存在する。

私たちに見えない課題はあるかもしれないが、少なくとも、自衛隊という規律厳しい職務遂行において、ジェンダー・バイアス（無意識を含む性差別的な偏見）など存在しているのは、我が身も、仲間も、最重要任務である国を守ることなどできないだろう。

宮城県の航空自衛隊松島基地では、幼い頃、東日本大震災を経験し、亡くなった家族や友人を汗みどろになりながら探し続けてくれた自衛隊員の姿を見て、人のため、という志をもって入隊した若き女性士長たちもいた。それぞれの思いを胸に、忘れられないあの辛い日に、自分たちも人々の助けになりたい。そんな彼女たちが自衛隊で働き続ける中で大切にしている信念が紹介された。

それは「誰か1人がゼロになったら全部ゼロになる」1人じゃないってみんな思っているから人のためにできる。誰一人欠けてはいけない、すべては仲間のために。仲間への感謝は絶対忘れない、だからこそ人に優しくなれる。そんな信念で彼女たちは今日も私たちを守ってくれている。国土防衛はもとより、災害時の自衛隊員の奮闘は誰しものが認めるところ。どうか、甚大な災害も、有事も起こらず、汗をかくのは訓練だけでありますように……。

足もと、新型コロナウイルス感染拡大から1年と半年が過ぎた。ようやくワクチン接種が加速されつつあるが、未だ怯えながらの生活が続いている。この間、多くの人が去っていった。その数、1万5千人を超える。もう誰一人、大切な命を失わせたくない。

長渕剛さんが若い頃に作った「祈り」という曲がある。少し寂しいメロディーだが大好きな歌の一つ。“今度生まれてくる時は幸せな日々を おくれるといいね お前の好きだったあの唄を今夜は朝まで歌ってあげるよ”、その歌詞の一節が胸を打つ。

足もと労働災害で9人の命が失われている。その一人ひとりに人生があり、一人ひとりの無念は計り知れない。航空自衛隊の皆さんの信念は私たちの思いそのもの。それは「仲間の命は、私たちのすべて」。わが身を守り、仲間を守ること。

さあ、令和3年・夏の陣、気を引き締めて

ご安全に  
2021年7月1日  
日本基幹産業労働組合連合会  
中央執行委員長 神田 健一